

修正前後の対照表

スライド番号		主な変更内容	備考
旧	新		
4	4	(一社)久留米銀行協会を追加 (2022年)	
5	5	時点修正(2022年の値を反映)	傾向に変化なし
6	6	時点修正(2022年の値を反映)	近年の傾向は「下げ止まり」
7	7	時点修正(2022年の値を反映)	傾向に変化なし
9	9	上津・南薫について言及	追加理由 上津 商業施設が立ち並ぶ校区 南薫 西鉄久留米駅に隣接した校区
11	11	①時点修正(2022年の値を反映) ②市と県のニセ電話詐欺被害状況の比較を追加	②防犯協会が行うニセ電話詐欺対策事業の効果を強調するため
12	12	時点修正(2022年の値を反映)	傾向に変化なし
17	17	中高生や高齢者の移動手段として自転車の利用が多いと文言を追加	審査員に自転車利用が多い理由を伝わりやすくするため
18	18	時点修正(2022年の値を反映)	
20	20	時点修正(2022年の値を反映)	
22	22	時点修正(2022年の値を反映)	
24	24	時点修正(2022年の値を反映)	
25	25	市内の学校と連携し～の文言を追加	現状に合わせた表現に変更
26	26	時点修正(2022年の値を反映)	
28	28	時点修正(2022年の値を反映)	
30	30	①時点修正(2022年の値を反映) ②2020年以降国・県の水準以下をキープの文言を追加	②SC に取組む効果をアピールするため

事前指導振り返り

◆王先生

【質問①】

犯罪については、多くの市民が関心を寄せる事柄だ。さきほどプレゼンテーションの中で紹介があったニセ電話詐欺をはじめとする特殊詐欺は、中国・上海でも増加している。被害者は、久留米市と同じように高齢者が多い。被害にあう高齢者に、詐欺の手口などの情報を与えても「自分は大丈夫だ」と過信して聞く耳を持ってくれない。そこでお尋ねしたい。久留米市では、ニセ電話詐欺に対してどういった対策を取っているか？

【回答】

2つの対策を行っています。

①ニセ電話詐欺は、同じエリアに集中的にかかってくる。そのため、情報伝達のスピードが大切になる。久留米市では、ニセ電話詐欺の情報を警察がキャッチしたら、市へ連絡が入り、市は地域に情報を伝える体制になっている。そして青パトなどでパトロールを行ってもらう。

②日本ではニセ電話詐欺はそのほとんどが固定電話にかかってくるため、電話に対する対策が重要になる。犯人にアンケートを取ったところ、電話をかけたとき警告アナウンスが流れるとあきらめるという傾向がある。そのため、防犯協会が、防犯機能の付いた電話機の設置に対する補助を行っている。

【質問②】

若いひとが暴力団に入らないようにする教育に力を入れていることはよくわかった。逆に伺いたいのは、どういう人が暴力団に入るのか？また、学校との連携はどのように行っているのか？

【回答】

現在は、だれでも関わりを持つ可能性がある。以前は、家庭で居場所がない子どもなどが多かったが、SNSが普及し、今は誰でも関わりを持ちうるようになった。SNSで『簡単に稼げる』などといった謳い文句で若者を誘惑し、違法薬物で抜け出せないように仕向ける。関わりを持たせないことが大切になるため、暴力団についての教育が非常に重要になる。

【対策委員会の活動に対するアドバイス】

若い方たちの声をもっと聞くということも大事になってくる。課題に対して斬新なアプローチ方法を知っているかもしれない。対策委員会のメンバーに入るのは難しいかもしれないが、若い方たちの声を実施者側の声として聞けると、新しい視点からの気付きもあるかもしれない。若い人たちがどうやったら関わられるかを考えるといいと思います。

◆趙先生

【質問①】

プレゼンを伺い、青パトに興味を持った。これだけの規模で青パト活動を行う場合、ガソリン代や保険料などの費用もあり、相当の経費がかかると思う。ボランティアで活動しているということで費用を抑えられていると思うが、実際の経費はどれくらいかかっているのか？

【回答】

久留米市内では、全体で、約 60 台の青パトが稼働している。その中で、校区では 47 台の青パトが日々パトロールを行っている。そうした活動に対し、ガソリン代や保険代、事務費などの経費や、車検料、車両リース代を久留米市が補助している。久留米市では校区の青パト活動に 1,730 万円程度の予算を組んでいる。

【質問②】

校区の青パト活動が成果を生んでいるということはよくわかった。そこで伺いたいのは、どれくらいの頻度や規模でパトロールを行っているのか。イメージできる情報が欲しい。また、警察もパトロールに参加しているのか？

【回答】

パトロールの頻度については、校区ごとにパトロール隊を編成しているので、校区の実情に合わせて行っている。曜日を決めてパトロールを行う校区や、子どもたちの登下校の時間にあわせて行っている校区もある。それぞれに活動しやすいやり方で行っている。

また、パトロールを行うにあたり、警察から講習を受けてパトロールを行っている。警察の同行はない。

◆外傷等動向委員会での防犯に関する指摘について（趙先生）

視点：セーフコミュニティの効果を説明するためには？

久留米の例では、交通事故と防犯

- 交通事故は、全国、県より減少率が高いので、わかりやすい。
- 防犯は、全国も県も減っている。⇒S Cの効果が説明しにくい。韓国でも同じ悩み。

じゃあ、どうするか？

ターゲットが明確ならば、効果も説明しやすい。

本審査での対応：ニセ電話詐欺対策を講じた結果、福岡県の被害額が増大したのに対し、久留米市では減少した点を資料に追加（王先生の指摘にも合致）

久留米市セーフコミュニティ 防犯対策委員会

発表日 2023年8月1日
発表者 防犯対策委員会委員長 猪飼 廣幸
所 属 久留米市防犯協会連合会

みんなで取り組む安全安心まちづくり

1

1-2.防犯対策委員会の設置の背景

【図2】行政への要望で特に力を入れてほしいもの

労働・雇用対策	24.4%
高齢者福祉の充実	21.3%
地域医療体制の充実	19.3%
防犯対策	16.7%
子育て支援体制の充実	15.8%
生活道路や側溝の整備	12.8%
広域幹線道路の整備	11.8%
商工業振興対策	9.5%
消防・救急救命対策	9.1%
生活排水処理の整備	8.8%
農業振興対策	8.7%
公共交通網の整備	8.6%
防災対策	7.8%

< 出展：市民意識調査(2011年) >

★主観的データ

< 2011年取り組み開始時 >

当時
「防犯対策に力を入れてほしい」
行政施策33項目のうち、**第4位**

↓

市民の要望意識は高く、
犯罪を不安に感じている！

↓

**犯罪の予防・防犯力の向上で
市民の安心感が高まる！**

**2012年(H24) 3月
防犯対策委員会設置**

みんなで取り組む安全安心まちづくり

3

1-1.防犯対策委員会の設置の背景

※1

【図1】一般刑法犯認知件数の比較（10万人あたり）

年	久留米市	福岡県	全国
2007年(H19)	1882	1839	1494
2008年(H20)	1785	1678	1424
2009年(H21)	1930	1698	1336
2010年(H22)	1688	1554	1238

< 出展：警察統計 >

★客観的データ

< 2011年取り組み開始時 >

当時
長期的には減少傾向にあるものの、
2009年は認知件数が増加
国や県と比べ、高い水準

↓

**犯罪を減らすため
取り組みの強化が必要**

↓

**セーフコミュニティで
犯罪の予防を！**

みんなで取り組む安全安心まちづくり

2

2.防犯対策委員会の構成メンバー（2022年現在）

区分	NO.	所属	
関係団体	1	久留米市老人クラブ連合会	
	2	久留米市防犯協会連合会	
	3	うきは防犯協会田主丸支部	
	4	久留米市校区暴力追放推進協議会連絡会議	
	5	久留米市校区まちづくり連絡協議会	
	6	久留米男女平等推進ネットワーク	
	7	久留米市中学校長会	
	8	久留米市小学校長会	
	9	久留米市小・中学校PTA連合協議会	
10	久留米市校青少年育成協議会連絡会議		
関係団体	11	久留米市商工会議所女性会	
	12	文化街さくら会	
	13	(一社)久留米銀行協会	
	警察	14	久留米警察署(生活安全課)
		15	久留米子ども未来部青少年育成課
	行政機関	16	久留米市都市建設部道路整備課
		17	久留米市教育部学校教育課
		18	久留米市協働推進部安全安心推進課
		19	久留米市協働推進部男女平等推進センター
		20	久留米市協働推進部消費生活センター

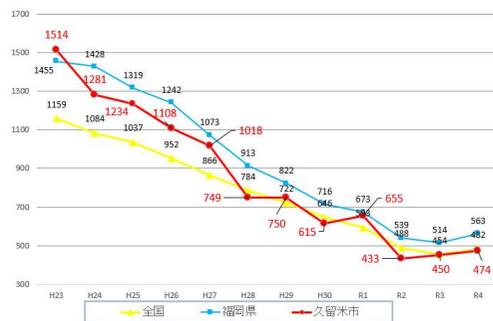
< 委員構成の見直し > 久留米市老人クラブ連合会を追加（2016年）
(一社)久留米銀行協会を追加（2022年）

みんなで取り組む安全安心まちづくり

4

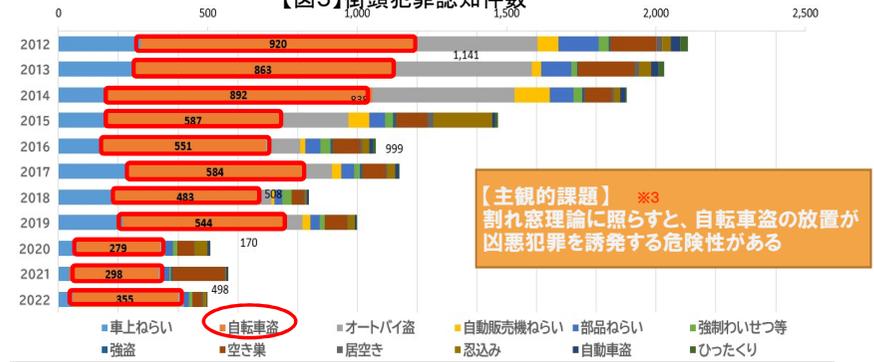
3-1.データに基づく課題 「一般刑法犯」は減少傾向。国・県の水準を下回る傾向

【図3】一般刑法犯認知件数の比較(10万人あたり)



3-2.データに基づく課題 街頭犯罪の中では「自転車盗」が最も多い

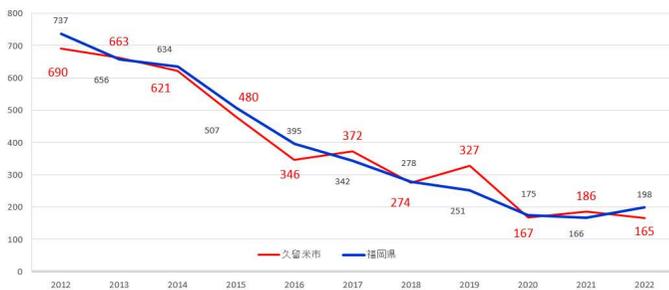
【図5】街頭犯罪認知件数



【主観的課題】 ※3
割れ窓理論に照らすと、自転車盗の放置が凶悪犯罪を誘発する危険性がある

3-1.データに基づく課題 「街頭犯罪」は減少傾向。近年の傾向は、『下げ止まり』

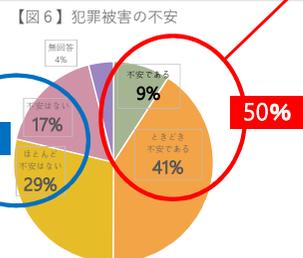
【図4】街頭犯罪認知件数の比較(10万人あたり)



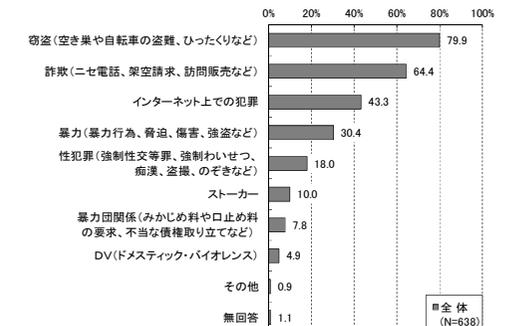
3-3.データに基づく課題

犯罪への不安を感じる人が、不安を感じない人を上回っている

問:あなたは、生活の中で犯罪の被害にあうかもしれないという不安はありますか。

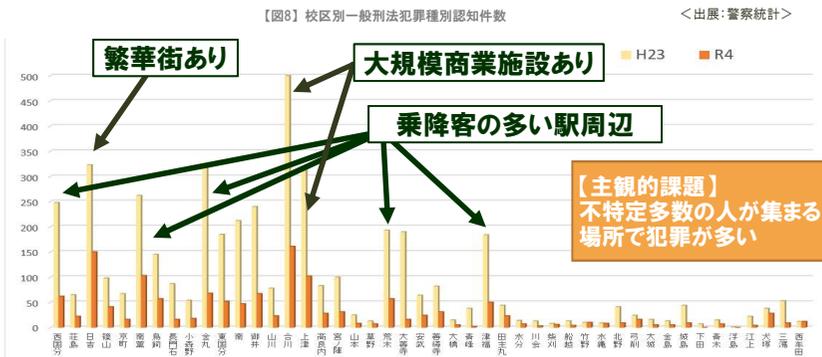


問:あなたが不安を感じる犯罪は何ですか。



3-4.データに基づく課題

大型商業施設や乗降客の多い駅、繁華街周辺で犯罪が多く発生している

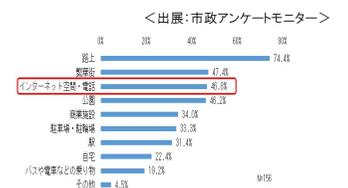


3-6.データに基づく課題

主に高齢者を狙ったニセ電話詐欺の被害が急激に増加



【図11】犯罪に巻き込まれるかもしれないと思う場所

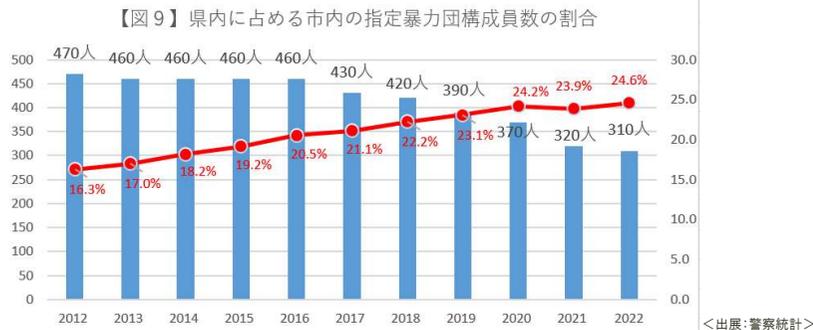


【図10-2】久留米市と福岡県のニセ電話詐欺被害状況の比較

		2021年	2022年
福岡県	認知件数	329件	368件
	被害額	7億6,460万円	9億2,283万円
久留米市	認知件数	22件	15件
	被害額	3,418万円	2,934万円

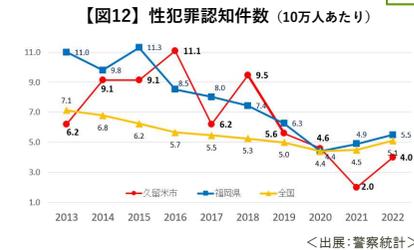
3-5.データに基づく課題

市内に本拠を置く指定暴力団の構成員数は減少傾向にあるが、県内に占める割合は増加



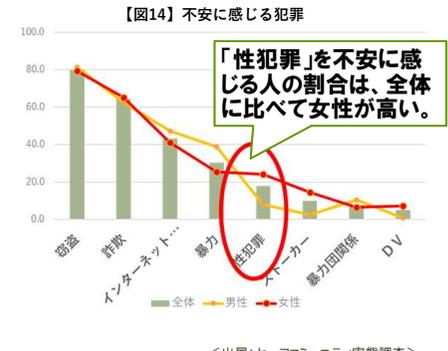
3-7.データに基づく課題

性犯罪認知件数は増減を繰り返している「性犯罪」を不安に感じる女性が多い

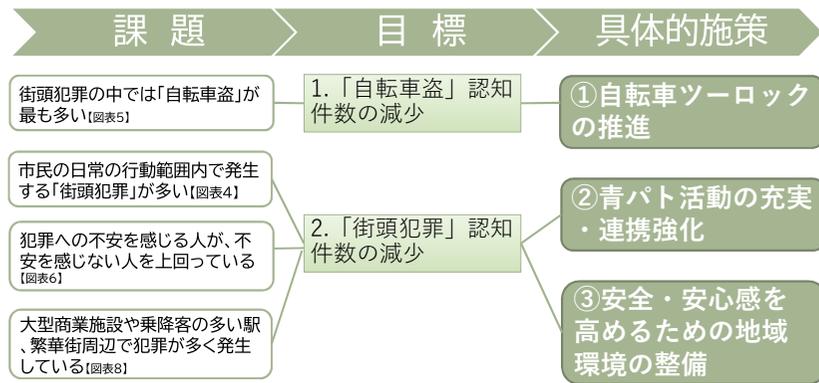


【図13】福岡県性犯罪発生率全国順位

年	順位
2018	第2位
2019	第5位
2020	第8位
2021	第7位
2022	第8位



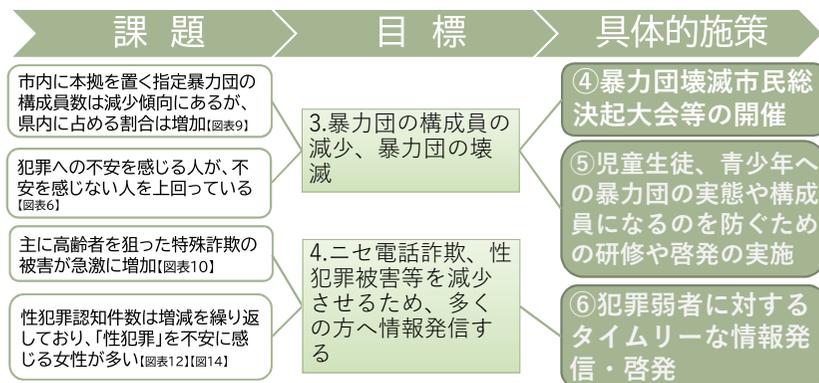
4-1. 課題解決のための目標と具体的施策



5-1. レベル別の対策

目標	分類	対策		
		国県レベル	市レベル	地域レベル
1. 「自転車盗」認知件数の減少	教育・啓発		街頭キャンペーン、出前講座等 取組① 街頭キャンペーン、啓発	地域にける注意喚起、ツーロックの実践
	規制	各種法令による規制	法や制度の周知	制度の理解、法令順守
	環境整備		自転車駐輪場の整備等	
2. 「街頭犯罪」認知件数の減少	教育・啓発		出前講座等 取組② 青パト活動への参加	自主防犯活動への参加
	規制	各種法令による規制	法や制度の周知	制度の理解、法令順守
	環境整備		地域防犯団体への支援等 防犯カメラ設置、地域への支援等	青パト導入 補助制度の活用による環境整備等 取組③ 防犯カメラ、防犯灯の設置

4-2. 課題解決のための目標と取組



5-2. レベル別の対策

目標	分類	対策		
		国県レベル	市レベル	地域レベル
3. 暴力団の構成員の減少、暴力団の壊滅	教育・啓発	暴排先生（県警）等	出前講座等 取組④⑤ 暴追大会への参加、啓発 暴力団排除の取組	暴力団壊滅、排除運動の実践
	規制	暴対法、県条例による規制	法や制度の周知	制度の理解、法令順守
	環境整備			
4. ニセ電話詐欺、性犯罪被害等を減少させるため、多くの方へ情報発信する	教育・啓発		街頭キャンペーン、出前講座等 取組⑥ 情報発信、啓発	地域における注意喚起
	規制	各種法令による規制	法や制度の周知	制度の理解、法令順守
	環境整備			

6-1. 具体的施策の紹介・成果

取組① 自転車ツーロックの推進



学生ボランティアや自転車商組合等も参加
交通安全対策委員会も連携して実施

中高生や高齢者の移動手段
として自転車の利用が多い

街頭キャンペーンなどにより、
ツーロックの安全性等を周知
自転車利用者実践を促す



6-2. 具体的施策の紹介・成果

取組② 青パト活動の充実・連携強化

2004年から推進してきた、
青パトによる防犯パトロールが
現在は市内全域で実施！



地域を見守る青パト



青パト ※6

取組① 自転車ツーロックの推進

指標	指標内容	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
活動	駐輪場や商業施設などでの啓発活動回数	18回	5回	2回	2回	2回
短期	ツーロックの実践状況【アンケート】	32.6%	28.9%	未実施	未実施	28.0%
中期	久留米市は治安が良いと思う人の割合【市政アンケートモニター】	74.8%	75.2%	未実施	75.8%	80.3%
長期	自転車盗の認知件数【警察統計】	483件	544件	279件	298件	355件

取組② 青パト活動の充実・連携強化

指標	指標内容	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
活動	青パト活動を行う校区数	41校区	44校区	45校区	45校区	45校区
短期	地域の防犯活動に参加したいと思う人【アンケート】	53.3%	49.2%	未実施	45.4%	46.7%
中期	防犯パトロールの連携団体数	47団体	51団体	52団体	52団体	52団体
長期	街頭犯罪の認知件数【警察統計】	838件	999件	508件	567件	498件

6-3. 具体的施策の紹介・成果

取組③ 安全・安心感を高めるための地域環境の整備



地域や団体、関係機関が連携
それぞれの役割に応じた環境整備で
危険因子を取り除く



みんなで取り組む安全安心まちづくり

2 1

6-4. 具体的施策の紹介・成果

取組④ 暴力団壊滅市民総決起大会等の開催



地域社会全体で暴力団の壊滅を目指す
小学校区単位での活動など、日常生活に
根付いた根気強い活動を展開

総決起大会及びパレード
毎年12月開催 約2,000人参加

校区での暴追大会、パレード



みんなで取り組む安全安心まちづくり

2 3

取組③ 安全・安心感を高めるための地域環境の整備

指標	指標内容	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
活動	①防犯灯設置費補助件数 (市補助事業)	1,558件	1,402件	1,057件	798件	集計中
活動	②街頭防犯カメラ設置 補助台数 (市補助事業)	17台	17台	14台	10台	14台
短期	この2～3年で治安が良くなったと思う人の割合【アンケート】	40.8%	45.1%	未実施	42.8%	41.2%
中期	久留米市は治安が良いと思う人の割合【アンケート】	74.8%	75.2%	未実施	75.8%	80.3%
長期	街頭犯罪の認知件数【警察統計】	838件	999件	508件	567件	498件

みんなで取り組む安全安心まちづくり

2 2

取組④ 暴力団壊滅市民総決起大会等の開催

指標	指標内容	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	
活動	開催数	2回	2回	1回	1回	2回	
短期	参加者数	6月開催	1,500人	1,500人	0人	0人	1,500人
		12月開催	2,000人	2,000人	31人	160人	2,000人
中期	暴追の取り組みを行なっている校区数	42校区	42校区	41校区	41校区	43校区	
長期	市内の暴力団の構成員数	420人	390人	370人	320人	310人	

みんなで取り組む安全安心まちづくり

2 4

6-5. 具体的施策の紹介・成果

取組⑤ 児童生徒、青少年への研修や啓発の実施



市内の学校と連携し、小学・中学・高校生へ暴力団関連の研修・啓発実施することで、暴力団構成員になるのを防ぎ、暴力団の弱体化を図る



小学校での防犯講話

6-6. 具体的施策の紹介・成果

取組⑥ 犯罪被害者に対するタイムリーな情報発信・啓発



出前講座や啓発チラシをはじめ、あらゆる機会を通じた情報発信被害に遭わないための行動を呼びかけ

取組⑤ 児童生徒、青少年への研修や啓発の実施

指標	指標内容	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
活動	防犯教育活動を行なった学校数	150校	109校	87校	110校	125校
短期	不良行為少年補導数	1,237人	1,234人	1,066人	947人	1,274人
中期	市内の刑法犯少年検挙・補導数	100人	67人	56人	53人	69人
長期	市内の暴力団の構成員数	420人	390人	370人	320人	310人

取組⑥ 犯罪被害者に対するタイムリーな情報発信・啓発

指標	指標内容	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
活動	啓発活動・出前講座回数	87回	67回	9回	24回	26回
短期	この2～3年で治安が良くなったと思う人の割合【アンケート】	40.8%	45.1%	未実施	42.8%	41.2%
中期	久留米市は治安が良いと思う人の割合【アンケート】	74.8%	75.2%	未実施	75.8%	80.3%
長期	①ニセ電話詐欺被害件数(阻止件数)【警察統計】	18件(34件)	16件(20件)	11件(24件)	22件(62件)	15件(43件)
長期	②性犯罪認知件数【警察統計】	29件	17件	14件	6件	12件

7. コロナ禍の工夫

SNS等を活用した新たな啓発活動

- ・啓発動画を作成し、YouTubeやLINEに投稿し、広く啓発
- ・啓発動画を市内各所のモニターで放映



二セ電話詐欺の対策強化

- ・コロナ禍での在宅時間の増加を背景に急増している二セ電話詐欺対策として、警察や校区まちづくり連絡協議会、民生委員児童委員協議会等と連携し、実施。

青パトを活用した注意喚起

日常的な訪問での声掛け

8-2. 取り組みによる全体的な成果

全国暴力追放 功労団体表彰受賞

「暴力団壊滅市民総決起大会」などの地域社会が一体となった、継続的な暴追活動が評価。



8-1. 取り組みによる全体的な成果

【図3】一般刑法犯認知件数の比較(10万人あたり)



一般刑法犯認知件数は減少！
2011年(取り組み開始時)の約30%
国・県より減少率が高い！

2012年 県の水準以下に

2016年 国の水準以下に

2020年以降 国・県の水準以下をキープ

市内の内訳を見ると…

街頭犯罪認知件数も減少！
2011年の約20%

自転車盗の認知件数も減少！
2011年の約30%

9. 再認証取得後の変化・気付き

防犯活動の充実

- 青パトによる防犯パトロールが市内全域で実施される
- 交通安全分野、学校の安全分野、高齢者との連携強化
- 防犯カメラ、防犯灯の設置の拡大
- 自主防犯活動団体の活動開始
- 住民活動による暴力団事務所の撤去



防犯活動の支援の拡がり

- 企業から青パトの寄贈
- 企業から車両用の安全警報装置の寄贈を受け、青パトに設置
- NPO法人から学校防犯システム「ツイタもん」の設置支援



10. 課題・今後の対応

市民参加の拡大

防犯活動 実践者・参加者の固定化・高齢化

➡ 気軽に参加できる仕組みの工夫が必要

情報発信の工夫

一般刑法犯の認知件数は減少しているが、犯罪に対する不安感是不変

➡ 防犯の取組やその成果について、広く市民に周知する必要がある

高齢者は、ニセ電話詐欺など、巧妙化する新たな犯罪への不安感が高い

➡ 今後もタイムリーな情報発信を継続する必要がある

用語集

※1 一般刑法犯

刑法犯(刑法及び暴力行為等処罰法、組織犯罪処罰法などの法律に規定される犯罪)全体から自動車運転過失致死傷罪など、交通関係の業過(交通事故によって人を死傷させた過失犯)を除いたもの。

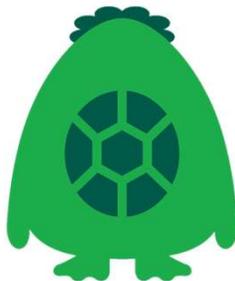
※2 街頭犯罪

一般刑法犯のなかで、身のまわりで発生しやすい10の犯罪の総称

- ・自転車盗
- ・オートバイ盗
- ・自動車盗
- ・侵入盗
- ・車上狙い
- ・部品狙い
- ・自販機狙い
- ・路上強盗
- ・ひったくり
- ・強制わいせつ



ご清聴ありがとうございました。



防犯対策委員会

用語集

※3 割れ窓理論

「1枚の割れたガラスを放置すると、たちまち街全体が荒れ、犯罪が増加」軽微な犯罪も徹底的に取り締まることで、凶悪犯罪を含めた犯罪を抑止できるとする、犯罪理論。

※4 暴力団

暴力あるいは暴力的脅迫によって自己の私的な目的を達しようとする反社会的集団。
なかでも、一定の要件を備えた反社会性の強い団体:「指定暴力団」

用語集

※5 ニセ電話詐欺

面識のない不特定多数の者に対し、電話やメールなどの通信手段により対面することなく、被害者から現金をだまし取る詐欺。
4種類の「振り込め詐欺」のほか、それに類似する多くの手口が存在する。

【振り込め詐欺】

・オレオレ詐欺

親族や警察官等を装い、金銭借用や被害防止のためと称して、銀行口座に振り込ませるもの。
最近では、被害者と対面して、現金やキャッシュカードを受け取る手口も見られる。

・還付金詐欺

税金や医療費などの還付を装うもの。

・架空請求詐欺

郵便や電子メールなどにより、架空の事実を口実とした料金請求文書を送付するもの。

・融資保証金詐欺

実際に融資する意思がないにもかかわらず、融資する旨の文書等を送付して、保証金等の名目で現金を振り込ませるもの。

みんなで取り組む安全安心まちづくり

用語集

※6 青パト

青色の回転灯を装備したパトロール車。
主に地域のボランティアを中心とした自主防犯団体により運行される。
一般車両への回転灯装備は法令で禁止されているが、全国の犯罪認知件数が2002年・2003年に戦後最多となり、自主防犯パトロールの機運が高まったことから、2004年に規制が緩和され、警察から適正にパトロールを行うことができると証明を受けた団体については、青色の回転灯を装備した公道走行が可能になった。
夜間の地域巡回や登下校時における子どもの見守り、犯罪多発エリアの警戒など、地域の実情に応じたパトロールに活用されている。

みんなで取り組む安全安心まちづくり

合同対策委員会についての振り返り (R5.3.24 開催)

■概要

日時 : 令和 5 年 3 月 2 4 日 1 3 : 3 0 ~ 1 5 : 0 0

会場 : 久留米シティプラザ 5 階 大会議室

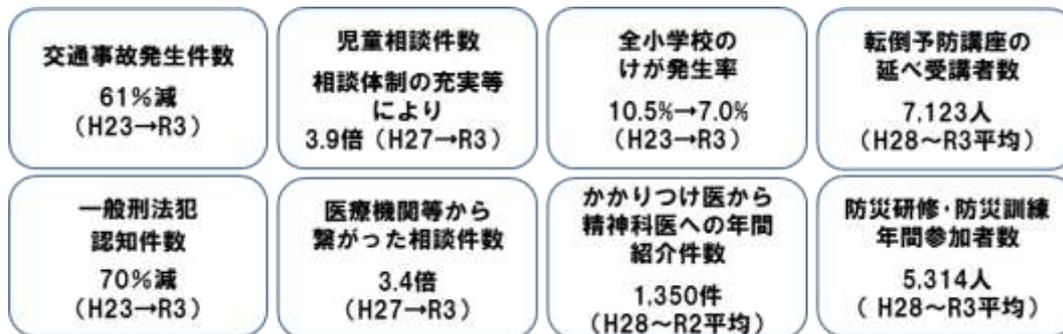
参加者 : 4 8 人

内容 : (1) 報告 : これまでのセーフコミュニティ活動の取組と今後の展開について
(2) ワークショップ

もっと安全で安心な久留米を作るために、セーフコミュニティを浸透させる
→セーフコミュニティを伝えるために、私たちができることは？

(1) これまでのセーフコミュニティ活動の取組と今後の展開について

セーフコミュニティの目的 = 久留米の安全・安心の向上



- 2 回の認証取得でセーフコミュニティが定着し、対策委員会の取組を通して、久留米の安全安心は向上。
- 3 回目の認証取得を機に、もっとセーフコミュニティを浸透させ、市民一人一人が安全安心を心がける町にしたい。
- しかし、これまで取り組んできた SC の広報啓発活動では、SC の浸透は困難 (R3 の SC 認知度 : 23%)。
- また、R3 年度の SC 実態調査では、多くの人が安全・安心の活動に取り組みたいと考えているが、行動できていない結果も

もっと安全で安心な久留米

- ◆多くの人がセーフコミュニティに参加する町
- ◆市民一人一人が安全安心を心がける町

- SC を浸透させ、安全・安心に取り組む人を増やすためには、できるだけ多くの情報を伝え続けることが大切

「私たちみんなの力で、セーフコミュニティを伝え続けていきましょう！」

(2) ワークショップ意見まとめ

個人で

- 家族や友人、子どもの友達、近所の人に話す
- 飲み会のときに話題に出してみる
- 出前講座を紹介する
- 関連するフェイスブックをシェアする、
- SNS（フェイスブック、インスタグラム）にSCについて投稿する
- くるっばの反射材をバッグに付けて、会った人にSCの話をする など

組織・団体の活動で

- 所属する団体で実施する活動、講演会・セミナーでSCについての話を入れる、紹介する
介護教室、防災活動、防災教室、救急講習会、児童虐待防止の講演など
- 出席する様々な会議でSCの情報発信し、他の団体組織に知ってもらう、働きかける
- 仕事で高齢者宅を訪れたときに、SC（転倒予防）についてアドバイスをする
- いきいきサロンの中で何ができるか話し合う
- 仕事などで出向いたところでSCの話をしてみる
- 自分の所属団体と関係がある施設にSCのチラシやパンフレットを置く
- 自分の団体のイベントや広報活動の際に、SCについて啓発（チラシ、ブース、展示）
- 車にステッカーを貼る
- SCのベストを着て仕事をする
- 職場にSCのぼり旗をたてる
- 一緒にSCのキャンペーンを行う など

組織・団体の内部で

- 所属する団体の内部研修でSCの話をする、出前講座を実施する
- 職場の朝礼や会議、研修の場でSCについて説明する、何ができるか話し合う、活動状況を報告する
- PTAや自治会の会議、活動の際にSCについて話す
- 校区だよりにSCについて載せる
- 掲示板にポスターを貼る
- 職員にSCについて、SCの取り組みについて話をする
- 職員に家族にSCについて話すよう依頼する
- 介護事業者を対象とした研修でSCについて話す
- 主任児童員に周知する など

